

## 令和3年度事業報告

新型コロナウイルスの感染は、ワクチン接種は進んではいるものの、未だに収束されず、景気悪化が深刻な状況となっています。また、少子高齢化の進行や人口の減少、産業の担い手不足、ウクライナ紛争に伴う燃料や食料の高騰等、課題が山積しています。

このような状況の中、本会としても生活や介護の悩みを抱えている方やその家族を支えられるよう、地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

新型コロナウイルスの影響により、収入が減少した世帯については、生活福祉資金の貸し付けやフードバンクでの食料提供を行ない、生活が維持できるように支援しました。

福祉教育の推進として、小学生向けの「こころのバリアフリーガイドブック」を作成し、日新小学校で「こころのバリアフリー講座」を開催しました。障がい者や高齢者の気持ちに寄り添い、考えることで、身近な福祉について理解を深め合うことができました。

昨年度に新庄市と本会で策定した「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」については、初年度の取り組み状況の確認や評価を行ないました。

放課後児童クラブについては、明倫学園開校に伴い、新たに明倫放課後児童クラブと新庄放課後児童クラブが開所しました。日新放課後児童クラブでは、雨漏り等、建物の老朽化が著しく、防水シート及び遊戯室の床張替え等の修繕工事を行ないました。工事期間中は、日新小学校の空き部屋を借用し、分散保育を実施しました。また、4ヵ所の放課後児童クラブでは、それぞれ抱えている課題を把握するために子育て推進課担当職員と社協職員、所長とヒアリングを実施しました。人材不足が大きな課題であり、令和4年2月より「放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業」を活用し、賃金改善を行ないました。

もみの木訪問介護事業所では、高齢者や障がい児者が住み慣れた地域で安心して自立した在宅生活を営むことが出来るように、生活援助や身体介護及び通院援助を実施しました。昨年同様、介護員の人材不足と高齢化が大きな課題となっており、職員の処遇改善を行ない、新規採用の推進と離職防止に努めました。また、車椅子で乗車できる福祉車両を購入し、利用者増に繋がるよう、福祉有償運送事業の強化を図りました。

もみの木介護支援事業所では、介護サービス計画を立案し、在宅や施設で生活している方々の相談に応じ、利用者の心身の状況にあわせて自立した日常生活を営むことができるよう支援しました。昨年度より職員を1名増員して職員体制の充実を図り、円滑に業務を遂行して、要支援者の利用割合は増加しましたが、要介護者が減少したことで、結果、収入面では減少することになりました。

地域包括支援センターでは、高齢者等に関するあらゆる相談を受け止め、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行ないました。特に認知症や精神疾患等による困難事例に対しては、医療機関や行政等と随時協議しながら専門的な支援を実施しました。また、各種研修会や会議については、一部オンライン研修を取り入れ、積極的に開催しております。

今年度は、新たな取り組みとして、市民向けの成年後見制度研修会や病院や薬局との研修会を実施、小中学校では認知症サポーター養成講座を開催し、福祉教育の推進や学校との新たな連携体制を構築できました。

最後になりましたが、各種事業にご支援ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げ、令和3年度主要事業につきまして、次のとおりご報告いたします。

## 【法人・地域福祉事業】

### 1. 役員会等運営事業

#### (1) 理事会の開催

|         |                  |                     |
|---------|------------------|---------------------|
| ◇第1回理事会 | 令和3年 6月 7日 (月)   | 出席理事 11名<br>出席監事 2名 |
| ◇第2回理事会 | 令和3年 6月 23日 (水)  | 出席理事 12名<br>出席監事 1名 |
| ◇第3回理事会 | 令和3年 12月 15日 (水) | 出席理事 12名<br>出席監事 2名 |
| ◇第4回理事会 | 令和4年 3月 23日 (水)  | 出席理事 14名<br>出席監事 2名 |

#### (2) 評議員会の開催

|          |                  |                      |
|----------|------------------|----------------------|
| ◇第1回評議員会 | 令和3年 6月 23日 (水)  | 出席評議員 18名<br>出席監事 2名 |
| ◇第2回評議員会 | 令和3年 12月 22日 (水) | 出席評議員 21名            |
| ◇第3回評議員会 | 令和4年 3月 30日 (水)  | 出席評議員 19名            |

#### (3) 監査の開催

|        |                  |                  |
|--------|------------------|------------------|
| ◇第1回監査 | 令和3年 5月 21日 (金)  | 出席監事 2名 (令和2年度分) |
| ◇第2回監査 | 令和3年 11月 26日 (金) | 出席監事 2名          |

#### (4) 委員会の開催

|                |                 |         |
|----------------|-----------------|---------|
| ◇評議員選任・解任委員会   | 令和3年 6月 9日 (水)  | 出席委員 5名 |
| ◇老人福祉センター運営委員会 | 令和3年 8月 2日 (月)  | 出席委員 8名 |
| ◇歳末たすけあい配分委員会  | 令和3年 12月 8日 (水) | 出席委員 8名 |
| ◇新庄市善意銀行運営委員会  | 令和3年 12月 8日 (水) | 出席委員 8名 |
| ◇表彰選考委員会       | 令和4年 2月 15日 (火) | 出席委員 4名 |

#### (5) その他

|                           |                 |       |
|---------------------------|-----------------|-------|
| ◇会計訪問指導                   | 令和3年 5月 12日 (水) | 高山税理士 |
|                           | 令和3年 9月 30日 (木) | 高山税理士 |
|                           | 令和4年 1月 21日 (金) | 高山税理士 |
| ◇県社協によるヒアリング (地域福祉事業について) | 令和3年 7月 1日 (木)  |       |

### 2. 事務局運営事業

関係機関及び団体との連携

#### ① 行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費の補助をいただいた。
- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業(日新・萩野・明倫・新庄)、地域活動組織育成支援事業、福祉バス運行管理事業、敬老会支援事業を委託事業として実施した。

- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行なった。

## ② 区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広くご協力をいただいた。

## ③ 民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りを協力いただいた。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

## ④ 県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

## ⑤ 関係諸団体との連携

- ・婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会、交通安全母の会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

### (事業効果等)

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

## ⑥ 地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・令和2年策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画の推進状況について、年次評価（各事業の実施状況の把握、分析、評価等）を行うため、検討会と推進委員会を開催した。

### ○検討会の開催

- ・日時：令和4年3月15日（火）10：30～12：10

### ○推進委員会の開催

- ・日時：令和4年3月25日（金）13：30～15：30

### (事業効果等)

令和2年に策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画における年次評価（各事業の実施状況の把握、分析、評価等）を行うことで、検討会及び推進委員会において、令和3年度の取り組み状況を確認し、福祉課題について共有することが出来た。

次年度では、これらの評価をもとに、必要時は計画や数値目標の見直し等を実施していきたい。

## 3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行なう各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

| 令和3年度実績額   | 前年度実績額     | 前年度比較    | 対前年比  | 振込利用件数 |
|------------|------------|----------|-------|--------|
| 7,736,100円 | 7,794,530円 | △58,430円 | 99.3% | 14件    |

集中受付期間 6月21日～29日

期間中社協会費納付地区数 160町内

(課題等)

社協事業への理解や協力を求める為、ホームページや会議の場での情報提供、広報紙による周知を行なうことを継続する。

#### 4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行なった。

(介護支援事業所)

##### 【介護支援専門員実務研修実習】

実習生1名 受入れ期間 令和4年1月24日(月)  
令和4年1月25日(火)  
令和4年2月2日(水)

(訪問介護事業所)

##### 【訪問介護実習】

東北文教大学学生1名 受入れ期間 令和3年8月4日(水)～5日(木)

(事業効果等)

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行なった。

#### 5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、社会福祉協議会としての危機管理対策や職員育成のための研修を行なった。

##### ○交通安全講習会

山形県火災共済協同組合の職員を講師に迎え、事故防止のための運転方法、冬道運転のポイント、危険感受性チェックシートを用いた交通リスク管理能力の把握等について学んだ。

日 時：令和3年11月25日(木) 13時30分～15時00分

場 所：社協3階会議室

講 師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生 氏

参加人数：23名

##### ○令和3年度新規採用職員研修

新たに正職員となった職員を対象に、法人組織の一員としての基本的知識の習得及び社会人・組織人としての自覚形成を促し、地域福祉を推進することができる社協職員に育成することを目的に職員研修を行なった。

日 時：令和3年4月23日(金) 9時～12時

場 所：社協3階会議室

対 象：新規採用職員 1 名

講 師：富樫常務理事、三浦事務局長、高橋・黒坂事務局次長

## 6. 各種表彰該当者の推薦

第 7 1 回山形県・県民福祉大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により中止となる。

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え山形県及び山形県社会福祉協議会から表彰状が贈られた。

《山形県・県民福祉大会会長表彰》

(敬称略・順不同)

一般社会福祉事業関係功労者 沼澤 啓子 柳田 恵子

## 7. 福祉教育の推進

学生からのボランティア活動の相談等を実施し、除雪ボランティアとして協力いただいたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募金活動や高齢者・児童施設でのボランティア活動は自粛した。

小学校の総合的な学習の時間において、「こころのバリアフリー」講座を開催し、障がいがある方やお年寄りの方の気持ちに寄り添い、児童一人一人が「自分で出来ることは何か」ということを考えることで、身近な福祉について理解を深める機会を設けた。

①日新小学校：令和 4 年 1 月 2 7 日（木） 受講者：5 年生（9 5 名）

新庄市地域包括支援センターでは、小中学校等を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、キッズサポーターを育成した。

認知症の方と家族の気持ちを理解し、地域での支え合いの心を育む良い機会となった。

①新庄中学校：令和 3 年 1 1 月 2 日（火） 受講者：3 年生 6 9 名

②日新中学校：令和 3 年 1 1 月 3 0 日（火） 受講者：3 年生 9 6 名

③升形小学校：令和 3 年 1 2 月 7 日（火） 受講者：3・4 年生 7 名

④新庄コアカレッジ：令和 4 年 2 月 1 5 日（月） 受講者：学生 2 6 名

## 8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

認知症の症状や知的障がい、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行なった。

最上管内利用件数 1 7 件（前年度 2 2 件）内、新規契約締結件数 1 件、解約件数 6 件

令和 3 年度相談件数 2 6 0 件（前年度 2 9 1 件）

〈最上管内利用件数内訳〉

|    | 新庄市 | 大蔵村 |
|----|-----|-----|
| 件数 | 1 7 | 0   |

(事業効果等)

福祉サービス等の利用援助やそれに伴う日常的な金銭管理を実施することで、利用者が安心して在宅生活を営むことができた。

## 9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行なった。

〈令和3年度貸付内訳〉

| 資金種類            | 件数  | 貸付金額        |
|-----------------|-----|-------------|
| 福祉資金（転居・修繕）     | 2件  | 368,000円    |
| 緊急小口資金          | 2件  | 152,000円    |
| 緊急小口資金（特例）      | 28件 | 5,500,000円  |
| 総合支援貸付（特例）      | 27件 | 15,300,000円 |
| 総合支援貸付 延長貸付（特例） | 7件  | 4,200,000円  |
| 総合支援貸付 再貸付（特例）  | 20件 | 10,700,000円 |
| 合計              | 86件 | 36,220,000円 |

（事業効果等）

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、休業等による収入減があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯の相談に応じ、特例貸付申請を受け付けることで、生活再建の支援を行なうことができた。

## 10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営を支援した。

◇サロン活動の実施状況

|    | 開催地区       | 実施回数（回） | 参加人数（名） |
|----|------------|---------|---------|
| 1  | 下金沢地区      | 9       | 98      |
| 2  | 老人福祉センター周辺 | 12      | 211     |
| 3  | 泉田地区       | 0       | 0       |
| 4  | 本合海地区      | 21      | 122     |
| 5  | 金沢新町       | 9       | 41      |
| 6  | あたご地区      | 6       | 54      |
| 7  | 本宮一区       | 11      | 102     |
| 8  | 泉田桜通り      | 0       | 0       |
| 9  | 野際団地       | 5       | 45      |
| 10 | 八向地区       | 12      | 120     |
| 11 | 西町地区       | 3       | 14      |
| 12 | 千門町地区      | 22      | 206     |
| 13 | 松枝地区       | 0       | 0       |
| 14 | 上西山地区      | 9       | 67      |
| 15 | 下仲町地区      | 5       | 35      |
| 16 | 柏木山        | 7       | 56      |

|    |       |     |       |
|----|-------|-----|-------|
| 17 | 若葉町中央 | 2   | 10    |
| 18 | 吉袋地区  | 5   | 74    |
| 19 | 上仲町   | 0   | 0     |
| 20 | 鳥越    | 26  | 270   |
| 21 | 栄町    | 31  | 348   |
| 22 | 滝の倉   | 7   | 51    |
| 23 | 梨の木   | 13  | 74    |
| 24 | 若葉東   | 0   | 0     |
| 25 | 小泉    | 35  | 348   |
| 26 | 鉄砲町   | 0   | 0     |
| 27 | 下田町   | 13  | 157   |
| 28 | 上茶屋町  | 22  | 199   |
|    | 合 計   | 285 | 2,702 |

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新規での立ち上げには至らなかったが、感染拡大予防のため、マスク着用、定期的な換気等、予防対策を行なって実施できるよう支援した。開催自粛や継続の地区が見られるも、開催回数、参加人数は微増となった。

◇地域ふれあいサロン交流会

地域ふれあいサロン交流会については、人数軽減等、新型コロナウイルス感染拡大予防を講じながら開催した。

日時：令和3年11月9日（火）

場所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加：12地区のふれあいサロン計20名

11. 福祉バス管理事業（市委託事業）

市の委託を受け、福祉バスの運行管理を行なった。

| 利用団体                          | 件数 |
|-------------------------------|----|
| 老人クラブ                         | 4  |
| 障がい者団体等                       | 0  |
| 民生委員児童委員                      | 0  |
| 福祉関係団体                        | 0  |
| 高齢者団体（スポーツ）                   | 0  |
| 児童関係団体                        | 1  |
| 地域活動組織育成支援事業<br>（地域ふれあいサロン事業） | 1  |
| その他                           | 0  |
| 合 計                           | 6  |

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用団体の自粛により利用件数は減少した。

### 1.2. 敬老会支援事業（市委託事業）

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 7地区 参加者 511人

補助金額 111,907円

(事業効果等)

敬老会を支援することで、高齢者福祉の増進に寄与した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、記念品の配布のみにとどめる地区が増えた。

### 1.3. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮者世帯に貸付を行なった。

|             |     |    | 令和3年度    | 前年度      | 対前年比 (%) |
|-------------|-----|----|----------|----------|----------|
| 現<br>年<br>度 | 払出  | 件数 | 0件       | 0件       | 0        |
|             |     | 金額 | 0円       | 0円       | 0        |
|             | 貸付  | 件数 | 26件      | 21件      | 123.81   |
|             |     | 金額 | 562,000円 | 469,000円 | 119.83   |
|             | 未償還 | 件数 | 8件       | 11件      | 72.73    |
|             |     | 金額 | 143,000円 | 197,000円 | 72.59    |
| 全<br>体      | 未償還 | 件数 | 13件      | 21件      | 61.90    |
|             |     | 金額 | 226,000円 | 375,000円 | 60.27    |

(事業効果等)

生活費に不足が生じた世帯の相談に応じ、生活保護費や年金が入るまでに必要な生活費を貸付した。また、相談者と一緒に収入と支出を見直すことで、家計に関する助言・指導を行ない、生活自立支援センターもがみと共に自立に向けた支援を行なった。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

| 年度 | H24 | H27 | H28 | R1 | R2 | R3 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 件数 | 1   | 1   | 1   | 1  | 1  | 8  | 13 |

#### ◇フードバンクの提供

生活自立支援センター、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の53世帯に食品を提供した。  
(通常33世帯、歳末時20世帯)

※歳末たすけあい配分の該当世帯のうち、母子・父子世帯（子3人以上）の20世帯に対し、共立社新庄生協・もがみ中央農協女性部からのフードドライブで寄贈いただいた食料品を提供した。

#### 1 4. 放課後児童健全育成事業（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の放課後児童クラブを運営した。

日新放課後児童クラブ（松本）                      萩野放課後児童クラブ（萩野学園内）  
 新庄放課後児童クラブ（新庄小学校内）      明倫放課後児童クラブ（明倫学園内）

| 施設         | 職員数 | 年間開所<br>日数 | 定員  | 利用児童数（名） |      |     |               |
|------------|-----|------------|-----|----------|------|-----|---------------|
|            |     |            |     | 年間利用者数   | 年度当初 | 年度末 | 1日あたり<br>利用人数 |
| 日新放課後児童クラブ | 8名  | 277日       | 90名 | 16,175   | 90   | 76  | 46.1          |
| 萩野放課後児童クラブ | 3名  | 283日       | 40名 | 7,264    | 40   | 39  | 23.6          |
| 新庄放課後児童クラブ | 3名  | 288日       | 40名 | 6,544    | 36   | 33  | 23.6          |
| 明倫放課後児童クラブ | 4名  | 284日       | 60名 | 11,281   | 60   | 58  | 23.6          |

（事業効果等）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温やうがい、手洗いの徹底、消毒、定期的な換気を行なった。

中央学童保育所及び北辰学童保育所閉所に伴い、新たに4月1日から新庄放課後児童クラブを開所、6月1日より明倫放課後児童クラブを開所した。

日新放課後児童クラブについては、屋根の防水シート及び遊戯室床張替等の大規模修繕工事を行なった。工事期間中は日新小学校3階の部屋を借用し、放課後児童クラブと2ヶ所で運営することになり、工事期間から年度末まで常勤職員を2名増員した。

（課題等）

放課後児童クラブ全体として、擦り傷や打撲などの怪我が増え、アレルギー体質や服薬等、特別な支援が必要な児童も増えている。また、新型コロナウイルス感染等による施設閉所等もあり、行動歴を整理する作業や保護者との連絡調整、施設内の消毒作業等、職員の負担が大きく体制の見直しと人材不足が課題である。

#### 1 5. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

| 団体名            | 内容等                              | 金額（円）   |
|----------------|----------------------------------|---------|
| 新庄市戦没者遺族会      | 戦没者遺族会活動事業への支援<br>（市補助金218,000円） | 218,000 |
| 新庄市民生委員児童委員協議会 | 調査協力費の交付                         | 56,000  |
| 新庄市更生保護女性会     | 青少年非行防止等事業への助成                   | 43,000  |



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

#### 1 6. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

（1）広報紙「社協だより」の発行

◇第45号                      令和3年 7月発行                      全戸配布  
 ◇第46号                      令和3年11月発行                      全戸配布  
 ◇第47号                      令和4年 3月発行                      全戸配布

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行なった。

## (2) ホームページ・フェイスブックの運営

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、ホームページ・フェイスブックを媒体とすることで、研修会や義援金の案内、ボランティア活動の報告など、よりタイムリーに市民の皆様へ情報を発信し、広報を強化することが出来た。

また、災害時におけるボランティア募集等に備えるために、フェイスブックの運用を継続し情報提供の体制を整備した。

新庄社協ホームページQRコード→



## 17. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

| 事業実施福祉団体        | 内容等                 | 金額（円）  |
|-----------------|---------------------|--------|
| 社会を明るくする運動推進委員会 | 少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援 | 28,000 |
| 新庄市身体障害者福祉協会    | ストレッチ講習会への支援        | 28,000 |

(事業効果等) 上記の団体に助成し、事業推進を図った。

## 18. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

### (1) 社会福祉協議会表彰

※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため授与式は行なわず、受賞された方には賞状と記念品を自宅にお届けした。

社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行なった。

#### ◇ 会長表彰受賞者 4名

《民生委員・児童委員功労者》

藤澤 正義

《一般社会福祉事業関係功労者》

柳田 恵子 (新庄市更生保護女性会役員)

向 和枝 (児童養護施設双葉荘職員)

矢口 朋美 (児童養護施設双葉荘職員)

#### ◇ 会長感謝状 3名、3団体

《社会福祉事業協助・奉仕者》

阿部たきの 大澤 友子 今野 博邦

新庄信用金庫 新庄市農業協同組合 もがみ中央農業協同組合

(敬称略・順不同)

(事業効果等) 顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できた。

(2) 敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞を添え、祝い品の贈呈を行いました。

白寿対象者 21名 (男 1名 女 20名)

米寿対象者 278名 (男 78名 女 200名)

(事業効果等) 祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

19. 心配ごと相談事業 (共同募金配分金事業)

◇弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 浅沼 敬弁護士

毎月第3週木曜日 (午後1時30分～午後4時)

◇一般相談 (社協職員対応) 平日 (午前8時30分～午後5時15分)

| 相談内容    | 弁護士相談 | 相談内容    | 一般相談 |
|---------|-------|---------|------|
| 借金・多重債務 | 11件   | 生 計     | 42件  |
| 離 婚     | 6件    | 高齢者・介護  | 1件   |
| 遺言・相続   | 13件   | 障 が い   | 6件   |
| 近隣トラブル  | 4件    | 除 雪     | 5件   |
| 財産・不動産  | 10件   | 新型コロナ関連 | 172件 |
| 事 故     | 1件    | そ の 他   | 30件  |
| 労 働     | 2件    |         |      |
| 消 費 者   | 2件    |         |      |
| 苦 情     | 1件    |         |      |
| そ の 他   | 4件    |         |      |
| 合 計     | 54件   | 合 計     | 256件 |

(事業効果等)

弁護士相談において、離婚、相続、借金等の相談に対し、法的な観点から問題解決に向けた助言や適切な方向性についてのアドバイスを行なった。

一般相談では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活困窮に陥っている世帯の相談が多く、行政、生活自立支援センターもがみ、民生委員児童委員、山形県社会福祉協議会等と連携して、迅速な支援を行なうことができた。

20. 援護事業 (共同募金配分金事業)

災害被災者・交通遺児への支援

- ・市内の火災等の災害に遭われた世帯に対し見舞金等を支給している。
- ・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給しているが、新たな支援事由が生じなかったため良かった。

|               | 対 象 世 帯 | 金 額 (円) |
|---------------|---------|---------|
| 災 害 見 舞 金     | 1       | 30,000  |
| 交 通 遺 児 激 励 金 | 0       | 0       |

(事業効果等)

被災者遺族を見舞い、生活支援と福祉の増進に寄与することができた。

## 2 1. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行なった。

|        | 申請地区数 | 総事業費（円）                                    | 地元負担金（円） | 交付金額（円） |
|--------|-------|--|----------|---------|
| 遊具の修繕  | 3地区   | 140,800                                    | 14,080   | 126,720 |
|        |       | 福田、玉の木町、昭和三                                |          |         |
| 原材料支給等 | 10地区  | 142,851                                    | —        | 142,851 |
|        |       | 赤坂・本宮一区・市野々・横根山・二枚橋・福田<br>升形上二区・昭和三・柏木山・松本 |          |         |

（事業効果等）

区長と連携し、子ども達が安全に遊べるよう地域の遊び場の保全に協力できた。

## 2 2. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

会長杯ワナゲ大会の開催

新型コロナウイルス感染症対策を講じて、参加団体申込みまでは行なったが、大会間近に感染感大したため、中止となった。

## 2 3. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 37名 延回数 3,151回

（事業効果等）

市内の乳酸飲料業者と連携し、ひとり暮らしの高齢者を対象に乳酸飲料を配布しながら、声かけや安否確認することで、住み慣れた地域での安心した生活を支援することができた。

## 2 4. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

ボランティアの協力により、他から除雪に係る作業的・金銭的支援を受けられない高齢者世帯の自宅の玄関前と軒先の除雪を支援した。

実施回数 : 21回（17世帯）

活動団体数 : 11団体2個人

参加人数 : ボランティア延べ173名、職員延べ26名

## 2 5. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行なった。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行ない、ボランティア団体の把握に努めた。

(1) ボランティア講座の開催「災害ボランティア講座～その時、自分にできることは？」

講師：県社協（県ボランティア・市民活動振興センター長 横尾 晃 氏）

日時：令和3年11月9日（火）

場所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加：14名

## (2) ボランティア団体との協働

- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者3世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施した。
- ・チョコボラ：訪問理美容ボランティアのご協力により、外出困難な高齢者等へ理髪することにより、福祉向上を図ることができた。 7件

## 26. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として介護予防体操を実施した。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階  
②毎月第2金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室  
③毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：346名

実施回数：22回（全32回中、コロナ感染予防対策のため10回中止）

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会

植木 俊和 氏（植木接骨院）

早坂 耐希 氏（早坂整骨院）

加藤 修 氏（かとう整骨院）

（事業効果等）

老人福祉センターの参加者が多く室内が密集してしまうため、コロナ感染予防対策として、第2金曜日の日程を追加し利用者を分散させて予防体操を実施した。

また、市内の感染状況に応じて開催を中止としたが、中止期間中は、講師から配布されたテキストを活用し、心身が衰えた状態にならないよう自宅でストレッチや筋トレをしていただくことで、身体機能を維持することができた。

## 27. シニアタブレット教室（共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

シニア世代が趣味活動やコミュニケーションツールの活用を通して生きがいを創出し、生活に役立つ情報を得られるようになることを目的に、連続4回にわたるシニアタブレット教室を開催した。

開催日時：①令和3年7月 6日（火）9時30分～11時30分  
②令和3年7月13日（火）9時30分～11時30分  
③令和3年7月20日（火）9時30分～11時30分  
④令和3年7月27日（火）9時30分～11時30分

開催場所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加定員：10名

参加人数：延べ39名

講師：株式会社メビウス・ネットコム 代表取締役 沼澤聰子氏

（事業効果等）

シニア世代向けに分かりやすくタブレットの基本操作、インターネットやアプリの活用など実践的な指導を行い、受講者が情報機器を活用できるようになった。

また、利用者の余暇活動をより充実させるための機会となった。

## 【老人福祉センター運営事業】

### 1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいをづくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めた。

老人福祉センターまつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

#### ◇避難訓練及び防火設備の点検

避難訓練や非常用ベル等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めた。

#### (1) 老人福祉センター利用状況

|      |           | 令和3年度   | 前年度     | 対前年比 (%) |
|------|-----------|---------|---------|----------|
| 開館日数 |           | 303 日   | 296 日   | 102.36   |
| 利用者  | 延べ人数      | 7,093 人 | 7,476 人 | 94.88    |
|      | 団体数       | 713 団体  | 767 団体  | 92.96    |
|      | 1日の平均利用者数 | 23.4 人  | 25.3 人  | 92.49    |

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、カラオケルームについては年度内の利用中止、利用団体の自粛により、利用者が減少した。

#### (2) 文化教室別利用状況 (社協主催事業 共同募金配分事業)

| 文化教室種類   | 令和3年度 (人) | 前年度 (人) | 対前年比 (%) |
|----------|-----------|---------|----------|
| 生け花教室    | 144       | 67      | 214.9    |
| スポーツ吹矢教室 | 120       | 145     | 82.76    |
| 合計       | 264       | 212     | 124.52   |

※コロナウイルス感染拡大予防のため、開催自粛を行なった。

### 2. 老人福祉センター施設設備事業

大規模修繕無し。

#### (事業効果等)

昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、検温、マスク着用、換気対策を徹底して行なった。

文化教室や介護予防体操の利用自粛やカラオケルームの年度内の利用中止等を行なったため、利用件数は減少となった。

#### (課題等)

昭和49年に建てられた施設で老朽化が進み、耐震診断はしていない状況である。

社協全体の財務状況が厳しい中で、老人福祉センターへの資金の繰入が困難になってきており、今後の運営については市と協議が必要である。

## 【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

### 1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

|                        | 令和3年度 (円) | 前年度 (円)   | 対前年比 (%) |
|------------------------|-----------|-----------|----------|
| 戸別募金 (町内)              | 3,844,700 | 3,911,950 | 98.28    |
| 企業募金<br>(会社・商店498、個人3) | 1,791,455 | 1,818,564 | 98.51    |
| 街頭募金 (5団体)             | 34,863    | 41,733    | 83.54    |
| 学校募金 (市内13校)           | 147,755   | 239,757   | 61.63    |
| 職域募金 (21事業所)           | 56,951    | 64,688    | 88.04    |
| 篤志募金 (市民有志等)           | 137,647   | 113,115   | 121.69   |
| 合計                     | 6,013,371 | 6,189,807 | 97.15    |

※企業募金にご協力いただいた会社・商店については、令和4年3月発行の「社協だより」第47号に掲載した。

〈配分内容〉

|            |  |
|------------|--|
| 配分先        | 日新放課後児童クラブ、にこにこ城南放課後児童クラブ、<br>新庄市社会福祉協議会   |
| 社協<br>配分事業 | 老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、白寿・米寿祝い品贈呈、心配ごと相談事業、援護事業、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気・ハツラツ予防体操 |

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

|                      |   |
|----------------------|---|
| 街頭募金協力団体             | 沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会  |
| 街頭募金活動場所<br>活動場所提供協力 | ヨークベニマル新庄店、ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店  |
| 学校募金協力校              | 新庄小学校、日新小学校、本合海小学校、升形小学校、萩野学園、明倫学園、新庄中学校、八向中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校  |
| 職場募金<br>(募金協力)       | 新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合、新庄商工会議所、新庄最上地域シルバー人材センター、NPO法人すぎのこハウス  |
| 職場募金<br>(募金箱設置協力)    | 新庄市役所市民相談室、もがみ物産館、マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局宮内店、セブンイレブン新庄新町店、産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会(県立病院売店、合同庁舎売店)、ファミリーマート新庄千門町店、郷野目ストア(柗松町店、JA産直いなふね、柗柿本商店、ダイユーエイト柗新庄西店、新庄市老人福祉センター、新庄市社会福祉協議会 |
| 篤志募金                 | 石山宣助、小沼カツ子、外匿名6名  |

(順不同・敬称略)

## 2. 歳末たすけあい募金

### (1) 募金活動

〈募金内訳〉

|              | 令和3年度 (円) | 前年度 (円)   | 対前年比 (%) |
|--------------|-----------|-----------|----------|
| 戸別募金 (町内)    | 1,917,450 | 1,954,000 | 98.13    |
| 篤志募金 (市民有志等) | 0         | 33,600    | —        |
| 合計           | 1,917,450 | 1,987,600 | 96.47    |

### (2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

| 世帯区分    | 対象世帯数 (世帯) | 配分金額 (円)  |
|---------|------------|-----------|
| 準生活保護世帯 | 10         | 200,000   |
| 高齢者世帯   | 49         | 980,000   |
| 母子・父子世帯 | 22         | 440,000   |
| 障がい者世帯  | 4          | 80,000    |
| 入院・入所世帯 | 1          | 20,000    |
| その他困窮世帯 | 2          | 40,000    |
| 合計      | 88         | 1,760,000 |

・配分額 現金20,000円×88世帯＝1,760,000円

・地域福祉活動費として100,450円 新庄市共同募金委員会事務費として57,000円

### (事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

## 【介護等支援事業】

### 1. 介護支援事業 (もみの木介護支援事業所)

介護支援専門員 6名

介護を必要とされている方が自宅で適切にサービスを利用できるように、介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプランを作成し、医療機関、サービスを提供する事業所等との連絡・調整を行なった。

|          |    | 令和3年度       | 前年度         | 対前年比 (%) |
|----------|----|-------------|-------------|----------|
| 要介護      | 件数 | 1,628件      | 1,735件      | 93.83    |
|          | 収入 | 25,821,450円 | 27,136,540円 | 95.15    |
| 要支援・事業対象 | 件数 | 508件        | 359件        | 141.5    |
|          | 収入 | 2,116,020円  | 1,437,610円  | 147.19   |
| 認定調査     | 件数 | 170件        | 137件        | 124.09   |
|          | 収入 | 561,000円    | 508,200円    | 110.39   |
| 合計       | 収入 | 28,498,470円 | 29,082,350円 | 97.99    |

(課題等)

要介護の新規相談はコロナの影響により、2割が末期ガンのターミナルで短期の支援となっている。また、入院中の認定調査で要介護と認定されても更新時に要支援となる利用者も多く、要介護者の減少と要支援・事業対象者の増加となっている。

介護保険施設など施設入所や小規模多機能型へ移行が17名となった。引き続き住み慣れた家で安心して介護が受けられるように支援していく。

## 2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 6名

ホームヘルパー2級 13名

(令和4年3月31日現在)

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、介護福祉士やヘルパーの資格を持った介護員が自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポート等の日常生活上のお世話をを行うと共に、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所等と連携し業務を推進した。

|                            |    | 令和3年度       | 前年度         | 対前年比(%) |
|----------------------------|----|-------------|-------------|---------|
| 訪問介護事業                     | 件数 | 753件        | 703件        | 107.11  |
|                            | 収入 | 34,519,404円 | 33,104,196円 | 104.28  |
| 障害者自立支援事業                  | 件数 | 89件         | 84件         | 105.95  |
|                            | 収入 | 8,579,300円  | 9,442,060円  | 90.86   |
| ひまわり介護サービス事業<br>【福祉有償運送含む】 | 件数 | 96件         | 66件         | 145.45  |
|                            | 収入 | 678,265円    | 272,535円    | 248.87  |
| 合計                         | 収入 | 43,776,969円 | 42,818,791円 | 102.24  |

(事業効果・課題等)

- ・新型コロナウイルスの感染が広がる中、介護職員による消毒、喚起など基本的な感染対策を徹底したことで感染を予防し、訪問介護事業を継続することが出来た。
- ・月例会と事業所内における研修は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止を余儀なくされたが、資料を配布して介護職員が読み込むことで資質の向上に努めた。また、Zoomを活用して、事業所外の研修会へ参加した。
- ・訪問介護事業の全体の収入合計では、対前年比102.24%と微増だった。来年度は、福祉有償運送サービス事業において、車椅子を積載できる福祉車両を導入することで、訪問介護も含めて包括的に支援し、新規の利用者が増えるよう努める。
- ・介護職員処遇改善加算（介護）により、利用者に直接介護サービスを提供する介護職員の安定的な処遇改善を図るための環境整備と賃金改善が図られた。また、10月からは、福祉・介護職員処遇改善加算（障がい）を取得したことで更なる賃金改善が図られ、人材の流出を防ぐと共に新たな人材確保に繋がったと思われる。

## 【地域包括支援センター運営事業】

### 1. 地域包括支援センター事業

主任介護支援専門員 2名 ・ 保健師 2名  
 社会福祉士 4名 ・ 生活支援コーディネーター 1名  
 認知症地域支援推進員 1名(保健師1名が兼務)  
 事務職員 1名

#### ○総合相談事業

##### ①総合相談

高齢者等に関する様々な相談を受け止め、適切な制度やサービス、関係機関に繋げ、継続的に支援することができた。また、地域の関係機関や事業所等とのネットワークを構築できた。

| 総合相談事業 |       | 令和3年度  | 前年度    | 対前年比 (%) |
|--------|-------|--------|--------|----------|
| 相談件数   | 総合相談  | 8,025件 | 7,594件 | 105.68   |
|        | 内介護相談 | 2,257件 | 2,703件 | 83.50    |

##### ②地域におけるネットワーク構築

- ・ 県立新庄病院看護師長会学習会 (7月26日) : 包括業務や介護保険制度の説明、事例検討等
- ・ ラッキーバッグ (株) 職員研修会 (5月28日) : 薬剤師へ包括業務や介護保険制度の説明等
- ・ 最上地域在宅医療連携課題検討会 (月1回) : 最上地域の医療関係者との医療連携の検討会

#### ○権利擁護事業

地域住民による支援や介護保険サービスだけでは十分に問題が解決できない、適切なサービスに繋がらない等の困難な状況にある高齢者が地域で安心して尊厳のある生活ができるよう専門的・継続的な視点からの支援を実施した。高齢者虐待、成年後見制度、消費者被害、緊急対応が必要なケースに対して、行政、福祉関係事業所、医療機関、警察等と連携して対応した。

#### ○包括的・継続的ケアマネジメント

##### ①介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会を開催した。

場所：新庄市社会福祉協議会 開催回数：5回（うち3回がオンライン研修）

参加延人数：介護支援専門員131名

##### ②介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員へ必要に応じてサポートを実施した。困難事例については、同行訪問や関係機関との連携を支援した。

・ 相談件数：82件 ・ メールによりアンケート調査実施（連絡会の企画について）

#### ○自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

多くの専門職が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、高齢者の課題解決を支援した。また、外部助言者からの専門的な助言を受け、自立支援につながるケアマネジメントの実践力向上を図った。

開催回数：10回（第3水曜日） 検討ケース：23ケース 参加者：238名

参加メンバー：新庄市、包括センター、居宅介護支援事業所、サービス事業所、外部助言者

## ○研修会・イベント等の開催

### ①市民向け成年後見制度研修会

内容：成年後見制度制度についての周知を図り、正しい知識を身に付けてもらうことを目的に、Q&A形式で制度の疑問を解消するなど、分かりやすい内容で開催した。

- ・日 時：令和4年2月18日（金）13時30分～15時
- ・参加人数：18名
- ・場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室
- ・講 師：新庄ひまわり基金法律事務所 浅沼 敬氏

### ②認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り支える認知症サポーターを養成した。今年度は、新庄市内の全小中学校を巡回訪問し、講座の周知を図った。

- ・開催場所：第4区民児協、新庄コアカレッジ、新庄中学校、日新中学校、升形小学校、
- ・開催回数：5回
- ・養成人数：210名

### ③認知症サポータースキルアップ研修会

認知症サポーター養成講座を修了した方を対象に、認知症についての知識を深め、地域で認知症の人やその家族を支援するために必要な知識を身に付けるための講座を開催した。

- ・日 時：令和4年3月9日（水）14時～15時30分
- ・場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室
- ・参加人数：12名
- ・講 師：東北文教大学 高梨友也氏

### ④オレンジカフェ（認知症カフェ）

気軽な雰囲気の中で認知症について学んだり、ミニ講話やレクリエーションを行いながら交流できる場所として開催した。

- ・場 所：ひと休み いっぷく
- ・開催回数：11回
- ・参加人数：62名

### ⑤介護の入門的研修基礎講座

介護の未経験者等が介護に関する基本的な知識を身に付け、介護分野への参入のきっかけとなるための講座を開催した。

- ・日 時：令和3年11月26日（金）13時～16時
- ・場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室
- ・参加者：16名
- ・講 師：障がい者支援施設光生園施設長 坂上 洋 氏

### ⑥いきいき百歳体操（筋力運動）・かみかみ百歳体操（口腔体操）

高齢者の社会参加と健康寿命の延伸を目的として、通いの場の提供支援を実施した。

| No. | 開催場所     | 開催日（曜日） | 開催回数（回） | 参加延べ人数（名） |
|-----|----------|---------|---------|-----------|
| 1   | 老人福祉センター | 毎週 月・木  | 75      | 882       |
| 2   | 新庄市体育館   | 毎週 月・木  | 92      | 851       |
| 計   |          |         | 167     | 1,733     |

(事業効果等)

三専門職（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）が各専門性を活かし、関係機関と連携し、包括的な相談支援が実施できた。ネットワーク構築においても医療関係者との研修会や連絡会議等の機会が多かったことから連携が強化された。今年度は、新たに成年後見制度研修会、介護の入門的研修、小中学校での認知症サポーター養成講座、認知症サポータースキルアップ研修会等多くの市民向けの研修会を開催し、地域への普及啓発活動も実施することができた。また、オンライン（ZOOM）を活用した研修会を開催することができ、オンラインの活用スキルが高まった。

## 2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護保険における要支援者及び介護予防・日常生活総合事業における事業対象者に対して、心身の状況や置かれている環境に応じた適切なケアマネジメントを実施した。

| 介護予防ケアマネジメント | 令和3年度              | 前年度                | 対前年比 (%)    |
|--------------|--------------------|--------------------|-------------|
| 総 件 数        | 4, 4 2 4件          | 4, 6 0 8件          | 9 6 . 0 0   |
| 内センター作成分     | 1, 2 9 1件          | 1, 4 5 4件          | 8 8 . 7 9   |
| 委 託 件 数      | 3, 1 3 3件          | 3, 1 5 4件          | 9 9 . 3 3   |
| 収 入 金 額      | 2 0, 1 1 8, 3 0 0円 | 2 0, 2 0 0, 6 2 0円 | 9 9 . 5 9   |
| 委託費支出金額      | 1 2, 9 1 3, 4 5 0円 | 1 2, 4 9 2, 3 4 0円 | 1 0 3 . 3 7 |

(事業効果等)

昨年度と比較し、全体的なケアマネジメントの件数が減少した。正職員1名が育児休暇であった影響により、センターで作成するケアプランの件数が減少した。居宅介護支援事業所に委託する機会が多かったが、各事業所へ助言しながら連携し合い、適正なケアマネジメントを行なうことができた。